

【平成10年度 横浜市予算に対する要望】

- ① 放置・放棄自転車撤去の効果的推進
- ② 駐車・駐輪違反対策に民間整理指導員制度導入
- ③ しらとり台周辺の交通防災対策、信号機設置
- ④ 青葉台周辺住民のための交通体系の再構築
- ⑤ 田園都市線駅前混雑対策の三者協議機関の常設
- ⑥ 違法駐車駐輪ゼロの日運動提案
- ⑦ 青葉台駅前交差点にスクランブル信号の導入
- ⑧ 各地信号機設置要望の早期実現
- ⑨ 安全登校のための「学区制」規制の緩和
- ⑩ 藤が丘、市ヶ尾駅に車椅子用リフト早期設置

【平成11年度 横浜市予算に対する要望】

- ① 利用者急増の社協ハンディキャプ事業の充実
- ② 駅周辺に公道利用の簡易駐輪場設置に決断を
- ③ 市の助成で民間駐輪場に立体駐輪場確保を
- ④ U字溝促進のため受益者一部負担制度の新設を
- ⑤ 簡易歩道の安全確保のため電柱移設ルール確立を
- ⑥ 無線による街頭の防災同放システムの緊急整備
- ⑦ 地域防災拠点校に防災掲示板の取り付けを
- ⑧ 緊急防災ヘリ区内指定発着場の複数増設を
- ⑨ 奈良地区周辺地対策に行政サービス早期充実を
- ⑩ 区づくり推進費の大幅増額で区の独自性発揮を
- ⑪ 区制5周年行事へ若者中心の企画検討を

青葉台交通シンポジウム

かねてから、課題となっていた青葉台交通渋滞を考える交通シンポジウムが実現した。パネラーに部長も参加、部会での討議から「過度な車依存への反省、高齢社会に対応した交通、バス事業の見直しを基本理念に、駅周辺のマイカー規制と取締り強化、若葉台方面の過密バスの見直し、低料金コミュニティバスの実現、自転車の復権と整理指導員の配置」等を提言した。会議は横浜国立大学中村文彦助教授の基調講演に続きパネルディスカッション、会場参加者との意見交換、また、部会取材の「代官山コミュニティバス」のVTR映像を紹介。(10.11.28)

今後、交通面から見た青葉台の街づくり提言をまとめる。



新コミュニティバス現地調査

新たな公共交通システムの実例調査のため、武蔵野市営ムーブス（9年）、代官山東急トランセ（10年）を現地調査。いずれも乗降し易いステップが装備されたミニバス。住宅地と商業地を循環、100円～150円の低料金で高齢者や主婦のお買物を支援し大好評。

ムーブスは10年度92万人の利用見込。市職員の創意と情熱で運営コストを削減、市の助成費負担も0から数百万円の黒字へ。東急トランセは全て女性が運行担当。優しい乗客サービスを第一に、既に1日利用1500人と採算分岐点を大幅突破。乗客ニーズを掴んだ経営姿勢で新営バスの成功が期待される。

防災情報システム

情報網が断絶する災害時に避難情報、安否情報など一般区民への適確な情報伝達は防災上極めて重要な課題。市の防災行政情報システムの高度化が進む一方で、一般への街頭同放システムが著しく遅れている現状を指摘。また、青葉区内で開局申請中の横浜コミュニティFM放送を防災上どう役だてるか、申請者の東急電鉄の近藤企画課長、青葉区寺岡区政推進課長から計画や方針を聴くヒヤリングを開催（10.8.8）。市民参加の防災情報システムを目指す更なる取組が課題。

自転車問題

田園都市線駅周辺の放置自転車対策を一期に継続して取組む。駐輪場の絶対数不足、利用者の利便を考慮しない立地の悪さ、撤去一点張りでは放置自転車問題は解決しない。車社会が地球環境汚染問題等で反省が迫られる中で、自転車復権の位置づけを明確にし、整理指導員配置で歩行者との共存を図る発想が必要では。市民局伊藤係長と対話（11.2.13）課題は次期に…。

【部会紹介】それぞれがテーマと主張を持った個性派集団。実証第一で実態把握に現地調査に赴き、或いは行政に情報公開を迫る迫力ある活動グループ。その中で紅一点の大和田委員が部会の融和に心がけ、食事会や酒席でも和気藹々の話し合いが…。まだまだ力不足だが、区民に見える活動を目指す。

教育・子育て・生涯学習部会

1. 部会活動についての報告

当部会は1期で各委員の熱意溢れる活動で実績と成果を「部会活動報告書」として42ページに及ぶ小冊子を250部作成して委員総会、区民のつどいで配布しました。第2期目はこの貴重な資料を基本理念に置き、さらなる発展を期して調査、分析を行い、問題解決に真剣に取り組んで前進していく事にしました。

教育界を取り囲む環境は、新聞、テレビ等のマスコミを通じて報道されているように、いじめ問題から始まり、不登校児の増加現象、家庭内暴力、ナイフ刺殺事件、高・中生の薬物の濫用問題、学級崩壊での教師の苦悩する姿、次から次へと予測できない出来事、事件が全国各地で発生しており、放置できず、今こそ学校・家庭・地域社会三昧一体となって真剣に取り組んでいかなければなりません。当部会では、身近な問題から調査・情報収集に努め、問題解決に取り組み地味ながら根気よく努力しています。

子育てにつきましては、核家族化が進展し、少子化とともに今時の若いお母さん達が子育てに悩み苦しんで、相談する相手さえなく、あげくの果て自分自身を見失ってかわいなお子さんを犠牲にするというたましい事件が発生しています。青葉区では、子育て支援センターを保健所に開設して、相談にのり支援活動を行っています。また、ワーキングマザー達には長時間保育可能な保育所を増設するよう要望、提案を行っています。生涯学習では、区内に400をこす自主活動グループが積極的に活動を展開しています。区内に地区センターが四箇所、コミュニティハウスが五箇所ありますが、本当に合理的・有効的に利用されているか当部会で調査、研究を行っています。今まで申し述べた視点から市・区に対して要望・提言をしました。

平成10年度横浜市予算に対する部会要望・提案

- ① 障害児と健常児が同一校で学ぶ場合のその介護者への費用援助を。
- ② 全認可保育所で産休明けから保育を開始する。
- ③ 長時間保育可能な公立幼稚園の増設を。
- ④ 不登校児の受入施設の設置と臨床心理士の増員。
- ⑤ カウンセリングを伴う養護施設を校内に
- ⑥ 学童保育所の公営化の再検討
- ⑦ コミュニティスクールのための全校開放
- ⑧ 生涯学級の補助金制度の公開
- ⑨ 市ヶ尾高校の環境保全対策実施

⑩ 高齢者のパソコン教室の開催 平成11年度横浜市予算に対する部会要望・提案

- ① 10年度①～⑦までを再要望・提案
- ② 知的障害、身体障害の各地区センターへの雇用を期待する。

以上の要望提案をしましたが皆様にご理解願いたいのは、「地域のつどい」「区民のつどい」での要望提案を含め、決して出し放しではなく、市・区より親切、丁寧な回答を得ている事です。回答のない要望、提案は何回も行っていきます。平成10年4月発行の広報よこはま青葉区版に「区民要望・回答予算に生きる区民の声」として掲載されていますので参照して頂きたいと思います。



2. 市ヶ尾高校環境保全対策（道路建設） についての報告

同校の道路建設に関する新聞記事を見て、当部会として放置できないと判断して調査、情報収集に着手する。

- (1) 学校主催による保護者への説明会に出席するも保護者でないため入場を拒否される。
- (2) 高橋、河井、向井委員3名で市道路局建設北部建設課に出向き、説明を求めましたが現在本件に関して審議中の事項につき説明は出来ないとの返答。
- (3) 部長名で書面にて申し入れを行う。書面はイ) 学校当局との話し合いの結果について、ロ) PTAとの話し合いの結果について、ハ) 地域住民の反応について、ニ) その他道路計画の実態。の項目で書面を持参する。
- (4) 部会としては一時棚上げとして本来の部会活動に切りかえることにしました。

3. 「区民のつどい」充実の取組み

山村 敏和

「区民会議」は、区民の意見を区民自身が整理・集約し、具体的な提言として市や区に伝えるところに、最も大きな意義がある。このような認識のもとに私たちの部会では、区民の意見の源泉である「区民のつどい」の充実について話し合い、平成10年6月開催の「つどい」に向けて、次のような試案をとりまとめた。

①メインテーマを「みんなが主役の街づくりー赤ちゃんからおとしよりまで」とし、市民全員を視野に入れた暮らしづくり・街づくりを、市民自らが考え推進する姿勢を明示する。

②テーマ毎にグループ討論を行い、第1テーマを「子供たちはいまー子供たちをめぐる諸問題」とする。せつかくの発言を意見の羅列に終らせず、問題の本質と解決策について大いに議論し、市民として出来ることは何か、行政に何を求めるかを見つきたい。

③グループ討論で示された区民の意志を率直・簡潔にまとめ、「区民宣言」として表明する。具体的な内容は「提言」として、これに添付する。

幸い、この部会案が大枠として採用され、「青葉区はいまー私たちをとりまく諸問題」を第2テーマとして、当日は二つのグループで貴重な意見が多数出た。

第1グループの反省点として、発言者はコーディネーターに向けて意見を述べ、コーディネーターの感想が示されて次へ進んだため、グループ討論にならず、まとまらなかった。討論を通じて、一つでも二つでも区民の合意を形成し、区民会議ががっちりこれをフォローして区民ニーズの実現に取り組む、そのような実りある「区民のつどい」を目指して進みたい。

4. 教育・子育て・生涯学習部会に参加して

大西 正興

青葉区の一区民として公募し、2年目の今年、毎月行われる部会議の書記としての立場と委員としての立場から記してみたいと思います。

今年度は主なテーマとして5本柱、(1)不登校児等の解決策について、(2)養護学校について、(3)生涯学習について、(4)子育て支援について、(5)身体障害者、知的障害者の就業について等に関して活動してまいりました。

身体障害者、知的障害者の支援、交流について、自分自身もっと深く取り組む必要を強く感じた一年でした。青葉区をはじめ、横浜市全体の公共機関の障害者に対する教育をはじめとする人としての将来計画を

含めた包括的対策を強く望んだ一年でした。公正と公平を第一義とする政治行政が、積極的に将来展望を示し、リードする姿勢で民間、市民を引っ張っていく力強い行動を期待している次第です。私は、健康常識という状態を、あたりまえの如く理解できる方程式を知らず知らず組み立てていました。しかし、身体障害者(平成9年4月1日現在青葉区内3640人)の家庭の父母をはじめとした家族の方の悩みは、現在将来の不安へのつながり、想像を超えるものがあります。私は当部会を通じてもっともっと具体的なことを提案し、実行に移していけるような行動を致したいと強く感じています。その為にも第一に、障害者やその家族が安心して相談に行く事が出来る行政の窓口機関のきめ細やかな対応。第二に、障害者を広く受け入れることの出来る環境の確立(教育、就業、老後の社会更生施設等の拡充)。この二点を教育という観点から、深く行動的に取り組んで参りたいと思っています。一人一人が安心して生きていけるそんな世の中を当部会を通じて21世紀を担う人達に残していきたいと強く思っています。

5. 区民会議から得たもの・生まれたもの

高橋 敦子

区民会議ってどんなものかしらー区民会議に仲間入りしての2年間。小学校教師をしながらの参加活動でした。

その時、区内で起きている問題を、私達住民の目線に立って問題意識を積み上げて行き、微力ながら解決へと歩んだものでした。

区民会議でのこれらの体験が私の生きる方向にも大きな影響力を与えて参りました。

職場では幾つかの学級に不登校児がいました。彼等も親も、数々の事情、問題を抱えながら途方に暮れている場合が多いものです。当時は担任として幾つかの解決に当たってききましたが、職場を離れた今、自分の出来る事は何だろうかと考えたとき、一つの光が見えてきました。その光に向けて私は、準備に取り掛かることにしました。部会活動を更に深めるために、介護2級と手話の資格を取得しました。不登校児や悩める親のために、身近な所に相談窓口があったらと思います。悩んでいる(病んでいる)子や親に対して、私どもの方から飛び込んで行けたらと思います。子供が変わるためには、親や周りの大人が変わらなければと思います。

教育・子育て・生涯学習部会の小さな集いの大きな力がエキスになって、私の体の中で財産になっています。

教育・子育て・生涯学習部会の活動記録

活動一覧表

定例会	開催日時	開催場所	人数	活動内容概要
第1回	H. 9. 4.20 PM	青葉区旧庁舎	8人	①部会役員(部会長、副部会長、書記)の選出。 ②活動方針の決定。 ③部会名称、日程検討。
第2回	H. 9. 5.10 AM	山内地区センター	11人	①活動方針について検討。 ②中部「地域のつどい」開催日の為、出席優先として参加。
第3回	H. 9. 6. 7 AM	山内地区センター	10人	①運営委員選出に対する各委員の意見続出。 ②「区民のつどい」積極的参加。 ③活動検討。
第4回	H. 9. 7.12 AM	美しが丘地区センター	8人	①「区民のつどい」の反省会と改善方法について。 ②平成10年度予算への要望、提案について検討。
第5回	H. 9. 8. 9 AM	公会堂会議室	10人	①部会の年間活動予定案策定。 ②運営委員会の運について提案、意見の集約。
第6回	H. 9. 9.13 AM	藤が丘地区センター	10人	①市が尾高校の環境保全対策について。 ②第23回区民会議交流会に「心の教育」を提案する。
第7回	H. 9.10.11 AM	若草台地区センター	10人	①市が尾高校道路設置について北部建設課小林課長と面談し、再度説明を求める。
第8回	H. 9.11. 8 AM	公会堂会議室	8人	①市が尾高校道路設置についてまたも説明が得られず、部会長名で文章で説明を求める。
第9回	H. 9.12.13 AM	若草台地区センター	9人	①横浜市区民会議交流会に参加しての感想。 ②山村委員の区民会議に対する提案。③施設見学。
第10回	H.10. 1.10 AM	公会堂会議室	9人	①委員総会の準備委員として森、高橋(教)委員を選出。 ②「区民のつどい」小委員に、山村、大西委員選出。
第11回	H.10. 2.14 AM	藤が丘地区センター	9人	①委員総会の進め方について討議。 ②区民会議の勉強会。 ③平成10年度部会活動計画について検討。
第12回	H.10. 3.14 AM	山内地区センター	8人	①第2期区民会議委員総会開催(3月28日)。 ②3区交流会開催5委員が参加積極的に発言。
第13回	H.10. 4.11 AM	藤が丘地区センター	8人	①平成10年度年間活動計画の策定。 ②平成10年度「区民のつどい」“テーマ 赤ちゃんからお年寄まで～みんなが主役の街づくり～”と提案する。
第14回	H.10. 5. 9 AM	山内地区センター	9人	①区民のつどいメインテーマ決定の推移について山村委員より資料提出と説明。
第15回	H.10. 6.13 AM	公会堂会議室	8人	①区民のつどい開催。於青葉公会堂(6月27日)。 ②公開講座について意見集約。
第16回	H.10. 7.11 AM	藤が丘地区センター	7人	①区民のつどい反省会。 ②平成11年度予算に対する要望提案10項にまとめ提出。
第17回	H.10. 8. 8 AM			部会は夏休み
第18回	H.10. 9.12 AM	山内地区センター	10人	①3区交流会開催。 ②第3期区民会議検討委員会報告。 ③青葉区内小・中学校における不登校児の現状説明(高橋)。
第19回	H.10.10.10 AM	山内地区センター	7人	①第3期区民会議検討委員会からの報告、及び検討。 ②「区民まつり」参加、広報誌チラシ配布予定。
第20回	H.10.11.14 AM	若草台地区センター	7人	①施設見学会5委員の参加。 ②全区交流会3名の参加。区民会議活動要領について検討。
第21回	H.10.12.12 AM	公会堂会議室	7人	①第3期発足スケジュール及び要領改正案等の報告討議。 ②全区交流会の様子報告。
第22回	H.11. 1. 9 AM	藤が丘地区センター	8人	①第2期活動記録作成。(高橋(正)、大西、山村、高橋(教)委員にて寄稿)。 ②新年度活動方針討議。

文化・コミュニティ部会の活動記録

第2期の活動を始めるにあたり「前年度に実施した項目を基本として行動していく」という合意をし計画を立てスタートしました。

- ① 老人ホーム・障害者施設と地域住民との関係・関わり合いについて
- ② 在住外国人との交流を図るための具体的策
- ③ 親と子供との関係、子供を中心にした子供区民会議を開く
- ④ あざみ野フォーラム建設構想のフォロー

この4点に活動を絞り実現を目指して活動開始。

そのほかに

- ・他区区民会議の文化部会との情報交換（平成9年10年に行われた3区交流会の中で実現—北部方面フォーラム・ギャラリーの建設に向けての区民などのアンケートの共同取組の提案）
- ・区の事業に積極的に参加していくための情報公開を推進する（区づくり推進費の勉強のため、関係部署から説明を受ける。勉強会—①区民会議の可能性を求めて ②私たちが暮らす青葉区をより良くしていくためには…“実現されうる提案”をめざして）
- ・「地域のつどい」「区民のつどい」の活用（部会で取り組んでいるテーマを「つどい」の中で分科会やテーマとして取り込んでもらうことで実現）
- ・地域コミュニティ（自治会、町内会）での活動とテーマコミュニティ（区民会議の部会）での活動の連携…行動を伴った文化・コミュニティ部会の活動などを考慮に入れながら活動に広がりを持たせ、第1期の流れを推し進める工夫を考えました。

【ふるさとと呼べる街づくり】

公開講座の企画

活動の発表の場として文化・コミュニティ部会は毎年公開講座を展開してきました。平成9年春開催の「青葉区をふるさとに、住む人々がすてきに輝くために」では子供達からのたくさんのメッセージを作文という形で集め地域との繋がりを拓く第一歩を踏み出しました。これをPART1とし、第2期の私たちは平成10年3月15日にPART2「コミュニケーション」平成11年2月28日にPART3「共生」と展開しました。「コミュニケーション」では、地域在住の外国人といっしょに、人と人との交流を見直してみようということで広く区民へ呼びかけました。当日の朝日新聞に取り上げられたこともあって様々な人たち（外



国人、国際結婚家庭、帰国子女、日系2世3世などなど）が参加し、それぞれ違う視点からふるさとづくり、街づくりに欠かせないコミュニケーションを話し合いました。

同時に別会場では、遊びを通しての交流が行なわれました。ここでは、子供と子供（日本人と外国人）子供と大人お年寄りが、遊びを共有体験することで交流をすすめました。地域の活動グループや老人会と共に公開講座をする、繋がりを大切に、次回に展開していくことを学びました。また、区内の小学校からは600点近く「あそび」をテーマにした絵がみを集めることが出来、当日会場に展示をしたり、後日区役所1階ホールに展示をしたりと出来るだけ多くの区民の方々に活動が見える工夫をしました。

PART3「共生」では、いよいよ公開講座の中で老人や障害を持つ人をも取り込み、街づくりに生かして行ける話し合いの場を計画をしました。【人に優しくみんなで支えあって暮らせる街—青葉区】話し合いのきっかけづくりとして、みたく台中学校生徒による劇を取り入れたのも新しい試みでした。この劇は文化祭で上演されたもので、クラスから取り残された生徒を巡るいじめ問題やエイズ感染などを取り上げており、今こどもたちの問題を解決していくには単に学校、家庭だけではなく、地域をも巻き込んでの行かねばならない現状が見えてきたのではないのでしょうか？また子供のことはばかりでなく、老人、障害者、外国人といった様々な住民が抱えている問題を解決していくためにも、この＜地域でいっしょに考える＞ということから出発することの大切さが分かってもらえたと思います。そして区民会議の私たちとしては、そこでの話し合いをどのように生かし、区や市といっしょに街づくりを考えていくには、どう活動を展開して行けば良いのか考えさせられることが多い公開講座でした。

平成10年度横浜市予算に対する要望・提案

1. 市民利用の施設

大場・奈良地区に「地区センター」の建設が進められていますが、建設準備委員会には区民会議メンバーを参加させていただきたい。

2. スポーツ施設の早期建設を望む

青葉インターチェンジの高架下にテニスコートの設置を要望したところ、関係機関と協議する回答を頂きましたが、協議の結果はどうになりましたか。

3. 文化財の保護と保存

青葉区内には数々の文化財が残され歴史の宝庫です。が、現状は開発により破壊されているのが実態です。早急に保護の対策が必要かと思えます。

4. 施設の利用

◇区民利用施設協会に利用者団体の代表を追加して欲しい。

◇協会の長には天下りではなくその地域で活躍されている人を公募し適任者を推薦する形を採用することは、利用者の立場になって地域の特性を生かせることが可能になる。

5. センターの利用改善

1. 利用者交流会（仮称）を開催して利用者の声を聞いて改善をして頂きたい。
2. 利用時間・受付時間などの融通性が欲しい。
3. 施設を利用する場合、各種の制約がある。特に子供を対象にした制約が多い。

6. 在住外国人との交流について

在住外国人、また海外からの帰国子女も大勢住んでいる地域です。これらの人々には何らかの対応が必要かと思えます。一般住民と同様の生活を希望していますが、現状で疎外感を抱き地域住民と馴染めないのが実情のようです。その役割を「青葉国際交流ラウンジ」が担っていますが行政側も本問題には関与頂き支援を希望します。

7. 北部方面フォーラム・ギャラリーの早期実現

8. 区民会議の経費について

種々の活動をするには経費が必要になります。経費の執行の具体化を検討していただきたい。

9. 区役所との対話を実施したい

10. 情報の早期公開を

市民参加の街づくりを進めるためには絶対不可の問題と考えます。

平成11年度横浜市予算に対する要望・提案

1. 北部方面フォーラム・ギャラリーの早期建設・説明会の開催

2. 地域活動への外国人の参加・区民会議への参加の勧誘

- *外国人市民会議のようなものがあると良い。
- *子供達の学ぶ環境を豊かにする地域の教育力として、外国人住民も参加を惜しまないという声が上がってきています。教育委員会や、学校地域との具体的な話し合いを進めて欲しい。

3. 地域の人と人を繋げるコーディネーターを養成して市民利用施設のスタッフにする

- ◇社会教育理念、ボランティア活動、コミュニティーのあり方を充分理解した人
- ◇地域で3年以上活動していて、リーダー経験のある人
- ◇個人の自主活動を地域全体の活動に広げていける人の中から選ぶ。研修し、生涯学習支援センター、社会教育指導員、地区センター指導員などに派遣して欲しい。

4. 地域住民の能力活用・人材の掘り起こしを活用するシステムの確立

- ◇地域で住んでいる人々の中から市民講師を養成して市民利用施設や学校へ派遣して欲しい。
- ◇学校の空き教室やコミュニティースクールなどで開かれる講座に養成した市民講師を活用する。また、その人達を企画運営に関われるように。
- ◇地域で様々な活動するグループを、住民が把握しやすいようにするシステムが必要です。

5. 地区センターの利用者会議の実施と議事録の公開

6. 生涯学習計画の自主活動グループを支援するシステムを確立し、強化を図る

- ◇生涯学習は街づくりに繋がるものと考えます。
- ◇情報の共有化や、ネットワークを広げることにより、活動の場の拡大が図れる。
- ◇生涯学習のつどい、自主活動グループの交流会を開催することにより、協働のチャンスを生み出すことが出来る。そのためには、全体を把握するシステムづくりとシステムを支える環境—情報・会場・助成など—づくりが必要です

7. 街路樹の維持・管理を現状よりよりきめ細かく、剪定作業の回数を増やす